

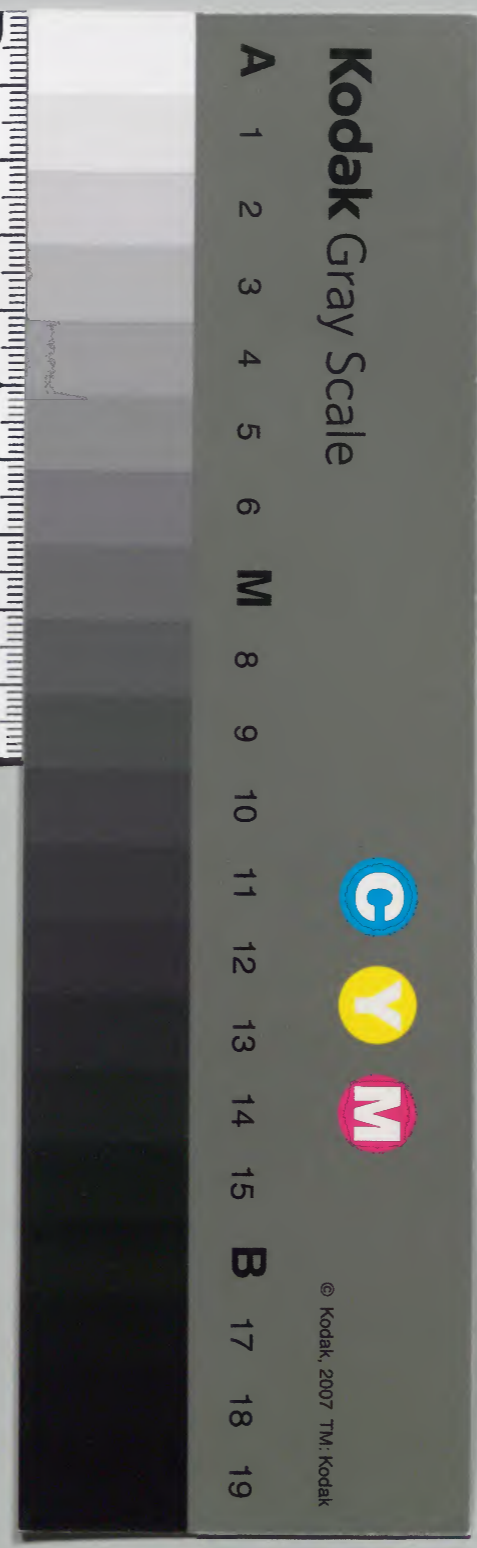
詞書雜識

內務省圖書
 第七二〇番
 部.....號
 六十七冊

和書門類
 二二八八七
 一〇二二
 一〇架
 七二冊

302
 內閣文庫
 二二八八七
 二二七
 二二七
 架冊號類

內閣文庫	
番號	和 22887
冊數	72 (1)
函號	212 302



目錄

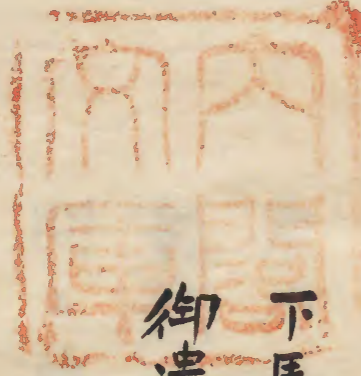
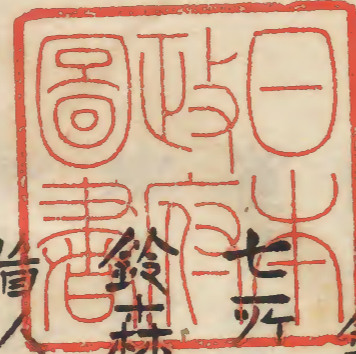
七所參詣道者 元樂錢 法印法眼取扱

鈴森八幡門前地 左街僧錄 因祈禱

旨人檢校支配 高順上座 甲州万澤卷牙

下馬札紗失例 久遠寺停金紋 相撲日數

御遺狀百箇條 日光御嘉瑞



祠曹雜識

卷五十二

題言

明治十五年購求

雀ノ蒙求ヲ嘆リ蛙ノ子曰ト鳴クハ皆其所居ノ
 地ニ習フカ故ナリ非情ノ物ニ在テ猶カクノ如
 シトシテ有情ノ人ニ於テイカテ雀ト蛙トニシ
 カストイフヘキ余祠曹謁者ノ側ニ親炙シテ其
 載籍ヲ披繙スルヲ殆七八年徒ニ蝨虫ト共ニ其
 間ニ生死スヘキニアラサレハ遠大ヲ棄テ近小
 ヲ記スノ嘲ヲ念レ時トナク處トナク筆ニ任セ
 テコレヲ雜抄シイツシカ積リテ百冊トナリ又
 固ヨリ世ニ傳フヘキニアラサレハ深ク篋底ニ



秘シケルニ一日友人來テ竊ニコレヲ檢閲シ痛
ク余ヲ規シケルハ子ハイニ夕論語ヲ讀スヤ今
此記ヲ見ルニ其位ニアラサレハ其政ヲ謀ラス
トイヘル聖誠ニ背キ非職凡下ノ身トシテ私ニ
官省ノ公事ヲ議スルト其罪輕カラス縱令其本
直ヲ失ハスシテ其名實ヲ得ルトモ其位ニ立テ
其政ヲ行ハシ人イカンゾ子カ記ヲ采リ子カ言
ヲ徴トセンヤ且記中無用ノ辯不急ノ察皆時勢
ニ甘カレル區區ノ管見祠曹謁者ニ在テ么麼ノ
補益アルニアラス然ラハ子カ此冊多シトイヘ

トモ劬メタリトイヘトモ勞シテ功ナク却テ罪
ヲ法家ニ得シノミ速ニコレヲ丙下ニ投畀スヘ
シトイフ余初テ此切切ノ言ヲ聞テ且ハ喜ヒ且
ハ懼レ忽嗒嗒ノ聲ヲ収メ合合ノ音ヲ息テ只一
寂ニ歸シケレハ友人ス、口ニ哀矜ノ心ヲ生シ
更ニ寛宥ノ詞ヲ垂テ云ヤウ子カ此舉ハ其情ヲ
察スルニ一ニ甘シク雀ノ蒙求蛙ノ子曰ニ等シケ
レハ必シモ其罪ヲ慘鞠スヘキニアラス今ヨリ
後ハ猥ニ声音ヲ抗テ學堂ノ嗒嗒ヲ乱ルトナク
ハ可ナリ

甲午夏月

麻谷老愚

外今... 社... 家... 御座... 候哉... 之義... 但國所... 違... 有... 之義... 御座候哉之

祠曹雜識卷六十一

伊勢熊野等七所參詣ノ道者社家修驗關係ノ差

別寛政五丑年會津ノ問合右答小松平子二其本

丸伊勢 熊野 富士 白山 三嶋

出愛宕 日光

一 右七所參詣之道者引導注連祓之儀者修驗
方請前ニ御座候哉又者社家方請前ニ御座
候哉參詣之モノ心次第社家山伏勝手次第
之義ニ而御座候哉之モ

但國所ニヨリ違ヒ有之義ニ御座候哉之

長寛永寛文之定 毛相違無之候

丑十二月

慶長十四五月

伊勢熊野社恭佛詣之道者引導修驗中作法也

寛永十二三月

權現様被爲定置候伊勢熊野七社恭詣道者注連卸夏

聖護院様御内若王子殿御墨附之通山伏可令修行者也

又味右者松平出雲守様安藤右京進様御居判之

苦傳御書付 以上修驗方申立之要語

寛文三年

岩城社家与山伏出入ニ付聖護院殿卜吉田家和談之上吉田家ヨリ奥州諸社家江申渡个條之内

一伊勢熊野七社先驅成行社家者如神道作法可執行山伏者可爲修驗道之作法無混乱可

相勤夏

同六年三月

諸社江檀那參詣之節社家方以神道之法於
有先驅啓行者山伏不可構山伏以修驗道之
法於引導者ハ社家一圓不可構夏

右井上河内守様加六爪甲斐守様被仰渡
以上社家方申立之要語

翌寅ノ二月再問合ニ御附札被仰下候然ル上ハ
是迄右注連被差出來候寺院ヨリ差出候儀ハ不
苦新ニ差出候儀ハ難相成義ニ御座候哉此段猶
又相伺申候卜アリケル附札ニ

書面是迄注連被差出來候寺院ニテモ修
驗方ヨリ差障候上ハ容易ニ仕來リ通ニ
ハ難申付ル右者吟味之上上テハ難
相決節ニ候尤障候モノモ無之テ差留候
文書ニハ不及儀卜存候

寅二月

税租ノ名目ニ礼若干貫トイフハ永樂錢ノ下略
ナリ礼一貫文ハ金一兩ニ當ル又地方ニ貫ノ名
アルト久レ偽説贅辨ニ中古地方ノ知行ヲ計ル
ニ百貫千貫ト云數目アリ今モ仙臺ニハヨレア